

JRC2017 参加報告（一般演題）

北海道大学病院 笹木 工

開催初日の夕刻に横浜入りした。Cypos では確認していたが、初日に行われた興味のある発表を聞くことができず、今年の本JRCは残念なスタートとなってしまった。最終日の午後1時から行われた「脳・膝パーフュージョン」のセッションについて報告する。演題数の関係なのか、それとも灌流画像ということでひとくくりにされてしまったのか？ なぜ脳と膝が一緒なのかというツッコミはナシである。この演題群には脳に関する演題が3題、膝に関する演題が1題であった。膝に関する演題は、S社のworkstationで、一連の画像の一部を取り除いた（擬似的に間欠曝射と同じ状態にした）2種類のデータをオリジナル（寝台往復による連続曝射）データと解析結果について比較したものであった。脳でも同様なことを行なったことがあるので興味を持って拝聴させていただいた。データサンプリングの間隔を空けすぎるとオリジナルデータでの解析結果と異なってしまうのは脳も膝も同じようである。動脈のArea Under the Curve (AUC, 時間濃度曲線の面積) の違いが影響しているとの考察であったように記憶している。結論は解析結果に差異がない間隔を見つけられたというものであった。自身の経験からであるが、撮影開始から動脈のピーク付近まではオリジナルのままその後には間隔を空けたデータセットの作成もできたはずである。これを含めた検討であると良い発表になったのではないかと思った。だが、膝のパーフュージョンに関しては講釈できるだけの知識がないので、前から3列目の席で静かにしていた。

あ、脳のパーフュージョンの話ですか？ 次回は発表できるように努力します。